

産業廃棄物処理業

経営塾

平成30年度 第15期生 募集要項

自分の使命に、
夢と誇りを。

P D M
ride ream ission



公益財団法人 産業廃棄物処理事業振興財団

開塾のごあいさつ

産業廃棄物処理業経営塾 塾長
岡山大学 名誉教授

田中 勝



世界の人口の増加と経済成長とともに、人々の購買力は向上し、社会でより多くのモノが生産・消費され、廃棄物の増加となります。世界の廃棄物発生量は2010年には105億トン/年が2050年には220億トン/年になると推定されました。これらが廃棄物処理業界により回収され、リサイクルや処理処分がされます。一方、限られた資源や、環境容量を持っている地球の存続のために、私たちの豊かな生活を維持しながら、資源を大切にし環境を大切にす社会、すなわち循環型社会の構築が求められており、それには廃棄物分野の高い技術やノウハウを生かした戦略的なマネジメントが重要になってきました。

世界の廃棄物は未だ収集もされない、収集されても野焼きを伴うオープンランピングという、空き地に投棄するレベルの低い処理がされています。ところが経済の発達とともに、環境負荷の少ないリサイクルや、焼却処理等の中間処理の導入が進み、高いレベルの適正処理が求められるようになりました。そのための投資も拡大し、今や世界中で高度な技術やノウハウを活用する専門の廃棄物処理業者が必要とされています。日本にも専門の廃棄物処理業者が育ってきていますが、欧米のメジャーのような、資金力、技術力、人的資源の充実した、国際競争にも負けない企業に育てて欲しいと期待しています。そのような企業に育つことが、国内における廃棄物処理においても、適正処理が保証され、安心して処理を委託される廃棄物処理企業が育つことになるわけです。



産業廃棄物処理業経営塾では産業廃棄物処理業界に『読み、書き、そろばん』の出来る、実力のある人材を育てることが出来ればと願っています。「読む」という意味には、文字に書いた文章を日本語であろうが外国語であろうが読めるということもありますが、先を読む力、人の話の本質を読む力も含まれています。物を作れば、それらは必ずいずれ廃棄物になるので、製造者は廃棄物になった後のことを読んで、物の設計や素材の選定をすることが求められています。先を読むこと、これが廃棄物学の基礎です。次に「書く」ですが、会議の議事録を執ったり、挨拶文を書くことも重要ですが、企業の将来ビジョンを描き、それを達成するシナリオを「書く」ことが経営者にとっては重要です。「そろばん」は、どのような選択をすれば社会にとって得になるかを判断する能力です。社会にとって、日本にとって、今や地球にとって得なことを判断し、経済的な側面だけでなく社会の信頼を向上する上でプラスになるかどうかの判断が出来ることがますます重要であると思われまます。このように人間力を高める「読み、書き、そろばん」の能力を高めていただきたいと思います。

廃棄物処理業界は循環型社会の構築に貢献しています。皆さんは、このように重要な廃棄物処理業界で活躍できることを誇り(Pride)に思い、欧米の企業に負けない一流の企業にすることを夢(Dream)見て、又廃棄物処理は私たちに任してもらいたいという使命感(Mission)を持ってもらいたいと思います。この誇り、夢、使命感のPDMを大切にしてください。PDMを常に心に抱けるように経営塾で学んで欲しいと思います。

産業廃棄物処理業経営塾について

塾長

岡山大学 名誉教授

田中 勝

副塾長

(株)エックス都市研究所 相談役

青山 俊介

(公財)産業廃棄物処理事業振興財団 専務理事

由田 秀人

事務局

名称 公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団

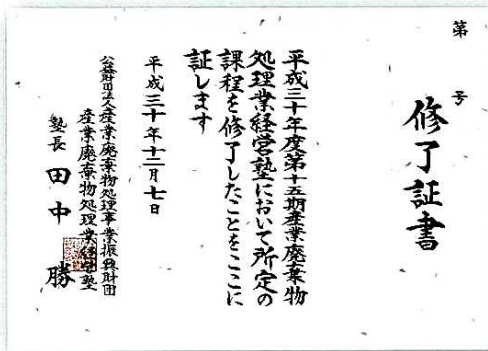
設立 平成4年12月3日 財団法人産業廃棄物処理事業振興財団
平成24年4月1日 公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団
(公益財団法人移行認定)

指定 産業廃棄物の処理に係る特定施設の整備の促進に関する法律第16条に基づく厚生大臣指定法人(平成4年12月24日:厚生省収生衛第1073号)、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第13条の12に基づく産業廃棄物適正処理推進センターとしての厚生大臣指定法人(平成10年7月1日:厚生省収生衛第879号)

「産業廃棄物処理業経営塾」に入塾すると…

信用力のある修了証書

卒塾生には、「産業廃棄物処理業経営塾」修了証書を授与いたします。
この修了証書が優良な産業廃棄物処理業の経営責任者として評価され、施設建設や事業運営に際しての信用力としても活用されるよう、他に類のないカリキュラム、講師陣によって運営を行います。また、その信用力を担保するため、入塾資格を厳しく審査すると共に、個別に卒塾面談を行い、卒塾生の資質を高めるよう配慮いたします。



ネット広場による講義のフォローアップとネットワークの強化

入塾と同時に、ソーシャルネットワーキングサイト(SNS)「ネット広場」に入会できます。この「ネット広場」に講義を公開しています(一部除く)。また同期生や卒塾生と在塾期を越えて交流できるほか、当財団からのお知らせや国の動向を受け取ることができます。

- 講義の公開
- 事務局からの情報発信(受講案内、国の動向、イベントの広報)
- 塾生・卒塾生同士の情報交換・意見交換の場



第15期 日程及びカリキュラム

開催日	カリキュラム	時間
6/7(木)	産業廃棄物処理事業概論	開塾式15:00～ / 開塾懇親会17:30～
6/21(木)	産業廃棄物にかかる法制度・行政	10:15～15:50 講義終了後に懇親会を予定
7/12(木)13(金)	夏季合宿研修	12日 10:30集合 / 13日 17:00解散
7/26(木)	産業界・排出事業者	10:15～15:50
8/3(金)	コンプライアンス	10:15～15:50
8/30(木)	産業廃棄物処理業の経営Ⅰ	10:15～15:50
9/13(木)	産業廃棄物処理業の経営Ⅱ	10:15～15:50
9/14(金)	施設見学	
9/28(金)	廃棄物技術	10:15～15:50
10/11(木)	財務・金融	10:15～15:50
10/25(木)26(金)	秋季合宿研修	25日 12:30集合 / 26日 17:00解散
11/9(金)	ワークショップ～AI・IoTとどう向き合うか～	10:15～16:10
11/22(木)	処理業経営者に期待すること	10:15～15:50
	卒塾レポート提出	卒塾面談
12/7(金)	卒塾式	15:30～17:00

*講師の都合により、カリキュラムの日程が入れ替わる場合がございます。

6月7日(木) 産業廃棄物処理事業概論

開塾式: 15:00 開塾懇親会: 17:30

開塾最初の講義として、経営塾の講義の全体構成、卒塾資格条件などの説明。産業廃棄物処理業展開状況や制度・国際的な動向を鳥瞰すると共に、産業廃棄物処理の経営/優良処理業者育成などの今日的潮流を講義。

担当講師 田中勝 (塾長 岡山大学 名誉教授)

64年京都大学卒業。70年米国ノースウェスタン大学大学院修了。同年米国ミシガン州立ウエインズテイト大学助教授、76年厚生省に入省、92年国立公衆衛生院廃棄物工学部長、00年岡山大学環境理工学部教授、08年公立鳥取環境大学サステナビリティ研究所長等を歴任。(公財)廃棄物・3R研究財団理事長。(株)廃棄物工学研究所代表取締役。アジア・太平洋廃棄物専門家会議(SWAPI)代表、有害・医療廃棄物研究会会長、UNEP世界水銀パートナーシップの廃棄物管理分野のリーダーを務める。



担当講師 青山俊介 (副塾長 (株)エックス都市研究所 相談役)

72年東京大学大学院工学系都市工学科修了。82年(株)エックス都市研究所代表取締役就任、06年同社取締役特別顧問、(株)環境構想研究所代表取締役、16年(株)エックス都市研究所相談役、現在に至る。(公社)土木学会地球環境委員会委員長、愛知博覧会政府出展事業環境担当ディレクター、廃棄物学会理事、(社)海外環境協力センター運営委員長、杉並区環境清掃審議会会長などを歴任。主な現職は、(一社)日本有機資源協会副会長、(社)日本プロジェクト産業協議会理事・環境委員長など。



6月21日(木) 産業廃棄物にかかる法制度・行政

1限目講義: 10:15~11:35 2限目講義: 12:40~14:00 3限目講義: 14:30~

1限目 産業廃棄物処理行政の現状と今後の展望について

我が国の産業廃棄物処理行政の担当部署の責任者から、廃棄物処理法改正の内容、PCB廃棄物処理、循環型社会の構築に向けた産業廃棄物処理業の振興方策、循環資源の越境移動への対応等について講義。

担当講師 成田浩司 (環境省環境再生・資源循環局廃棄物規制課長)

94年4月環境庁(現環境省)採用。衆議院法制局、大気環境課、環境副大臣秘書官事務取扱、産業廃棄物課、在中国日本国大使館経済部一等書記官、大臣官房政策評価広報課、四国経済産業局総務企画部長、警察庁生活安全局都市防犯対策官、地球環境局市場メカニズム室長などを経て、17年7月より現職。



2限目 地方における廃棄物行政

一層信頼される処理業者を目指して、現場の事例を踏まえたコンプライアンスに関する講義。

担当講師 是永剛 (長野県環境部環境政策課 環境審査係長)

91年長野県職員採用。県庁、出先機関において産業廃棄物の許認可、監視指導業務を中心に環境行政に携わる。17年県庁環境政策課で環境影響評価担当(個別の産廃事案に引き続き対応中)。(出版など)「簡単ガイド廃棄物処理法直近改正早わかり」(06年日本環境衛生センター執筆協力)、「廃棄物処理法いつ出来た?この制度」(08年日本環境衛生センター共同執筆)、「ここまでわかる!廃棄物処理法問題集」(10年産業環境管理協会 共同執筆)。(委員など)04年~環境省環境調査研修所「産業廃棄物アカデミー」講師、03~07年環境省「今後の産業廃棄物処理行政のありかた研究会」委員。14年信州大学非常勤講師。



3限目 意見交換会

3限目終了後に懇親会を予定しております。(19時終了予定)

3限目講義終了後、希望者には当日の振り返りを行います。(30分程度)

7月12日(木) 13日(金)

夏季合宿研修【多摩永山情報教育センター】

12日:10:30集合 13日:17:00解散

① 塾生企業の紹介

② 合宿研修～中長期ビジョンの策定と経営戦略の立案【グループ討議】

経営目的・ビジョン、企業ドメインの策定、競争優位性とコアコンピタンス、事業シナジーと新規事業の資源展開、既存事業の資源展開等に関する講義、及び事例研究のグループ討議を通じて、自社の中長期ビジョンの策定と経営戦略の立案について学ぶ。

担当講師 吉田 隆太 (株)ミスターマーケティング 取締役

7月26日(木)

産業界・排出事業者

1限目講義:10:15~11:35 2限目講義:12:40~14:00 3限目講義:14:30~15:50

1限目 産業界からみた産業廃棄物処理

廃棄物・リサイクルをはじめとした環境問題における経団連の取り組みや考え方等について講義。主に、排出事業者・動脈産業の立場から、経団連環境自主行動計画や規制改革等の考え方を説明。

担当講師 池田 三知子 (一社)日本経済団体連合会 環境エネルギー本部長

90年4月経団連事務局に入局。以後、税・財政、企業会計、行政改革、農業政策、都市・住宅政策、環境問題、資源・エネルギー問題、CSR、社会貢献、東日本大震災支援、消費者政策、雇用・労働政策等の担当を経て、15年4月より現職。



2限目 トヨタ自動車における循環型社会構築の取り組みについて

クルマにおける循環型社会構築を図るため、開発・設計、生産、販売、廃棄段階における3R推進の取り組み状況について解説する。また、「トヨタ環境チャレンジ2050」についても併せて紹介する。

担当講師 加藤 忠利 (トヨタ自動車(株) 環境部 コミュニケーション室 調査グループ プロフェッショナル・パートナー)

73年トヨタ自動車(株)入社。以後工場建設における環境対策設備の計画・調達、環境マネジメントシステムの導入、近年は(一社)日本自動車工業会のリサイクル廃棄物部会長として自動車リサイクル法の対応に携わる。



3限目 持続可能な社会を目指して スーパーマーケットの3Rの取り組み

現在のことだけでなく未来の未来に向かって地球環境を壊さずに、人間や地球の生き物が共存していく社会を構築していくこと。この未来に続く仕組みが持続可能な社会です。スーパーが持続可能な社会を目指し、持続可能な企業になることを目標に、消費者と一緒に地域に根ざした環境活動に取り組んでいます。この環境活動には、廃棄物の運搬や適正処理、リサイクル等に関わる事業者との信頼関係に基づくパートナーシップが不可欠です。事例をあげて紹介します。

担当講師 百瀬 則子 (ユニー(株) 顧問)

80年4月ユニー(株)入社、96年5月中京本部東浦店副店長、03年2月環境部長。同年日本チェーンストア協会環境委員、05年10月農林水産省食料・農業・農村政策審議会委員、07年環境社会貢献部部長、17年ユニー(株)上席執行役員CSR部長就任。農水省食料・農業・農村政策審議会専門委員(食品リサイクル小委員会)、環境省中央環境審議会専門委員(食品リサイクル)、経済産業省産業構造審議会環境部会廃棄物・リサイクル小委員会委員(容器包装リサイクル)など委員多数歴任。



8月3日(金) コンプライアンス

1限目講義：10:15～11:35 2限目講義：12:40～14:00 3限目講義：14:30～15:50

1限目 廃棄物処理法遵守の心得

廃棄物処理法の趣旨、遵守の必要性、「行政処分」の指針、事例を中心とした欠格要件などについて廃棄物処理法を体系的に講義。

担当講師 鈴木 道夫 (橋元綜合法律事務所 弁護士)

87年3月中央大学法学部法律学科卒業。88年11月司法試験合格。89年4月最高裁判所司法研修所司法修習生(第43期)。91年4月弁護士登録(東京弁護士会所属)、02年4月東京弁護士会常議員。12年4月最高裁判所司法研修所民事弁護教官。03年12月環境省アドバイザー(「特定産業廃棄物に起因する支障の除去等に関する特別措置法」に基づく実施計画書の審査に関する委嘱)、04年4月産業廃棄物適正処理推進センター運営協議会委員長。



2限目 リスクマネジメント

廃棄物処理業の鍵となる信頼確保のため、契約書及びマニフェストの管理の注意点、他法令を含めたコンプライアンスの課題と対応、顧客及び住民等からのクレームを受けた場合の対応、行政指導、立入検査への対応等のリスク管理について、事例を参考に講義。

担当講師 佐藤 泉 (佐藤泉法律事務所 弁護士)

第一東京弁護士会所属。主な業務：環境問題、特に廃棄物処理法及び土壌汚染対策法その他の環境関連法についての、紛争解決及び法律相談。第一東京弁護士会：環境保全対策委員会委員、東京都廃棄物審議会委員、経済産業省産業構造審議会臨時委員。



3限目 事例に学ぶ廃棄物管理【グループ討議】

担当講師 長岡 文明 (BUN環境課題研修事務所 主宰)

80年山形県技術職員として入庁。09年文化環境部循環型社会推進課課長補佐を退職。03年より環境省「今後の産廃行政研究会」委員、12年より環境省「PCB廃棄物の適正保管・早期処理の推進に関する調査検討委員会」委員、05年より環境省環境調査研修所講師、(公財)日本産業廃棄物処理振興センター講習会テキスト編集委員を務める。著書に、「土日で入門、廃棄物処理法」(日環センター)、「廃棄物処理法問題集」(産環協)などがある。



3限目講義終了後、希望者には当日の振り返りを行います。(30分程度)

8月30日(木)

産業廃棄物処理業の経営Ⅰ

1限目講義:10:15~11:35

2限目講義:12:40~14:00

3限目講義:14:30~15:50

1限目 総合環境企業を目指すタケエイグループの事業展開

建廃からスタートした同社は現在、総合環境企業をめざし、業容拡大に取り組んでいる。その一環として再生可能エネルギー事業にも積極的に進出。同社会長より、新規事業開発、協業・業務提携・M&A等のグループ連携、地域との共生、今後の事業展開や課題、次世代への期待等について講義。

担当講師 三本 守 (株)タケエイ 代表取締役会長

68年個人企業として建設廃棄物の収集・運搬・処理を手がけ始める。77年武栄建設興業(株)を設立、取締役就任。83年代表取締役就任。88年(株)タケエイに社名変更。10年代表取締役会長就任。(公社)全国産業廃棄物連合会理事、(一社)千葉県産業廃棄物協会理事、環境省・国土交通省の各種委員会委員など、委員多数歴任。



2限目 魅力あるリーダーとは

魅力あるリーダーとは、部下の立場を理解・支援することはもちろんの事、会社をよくするためにはという経営者の視点も持って行動することが必要だと考えます。基本的な考え方はもちろんの事、ワークを交えて社内では気づいていない自分の長所や短所にも目を向け、魅力あるリーダーを目指して頂きます。また、学生時代からサークル等のリーダーとして、100以上の部下指導を経験したからこそその失敗談や苦労話、経験談なども交えてお話させて頂きます。

担当講師 加藤 宣行 (加藤商事(株) 代表取締役)

67年東京生まれ。91年東海大学法学部法律学科卒業。同年加藤商事(株)入社。03年代表取締役就任。積極的に新卒採用を行い組織力の強化を図る。09年(社)全国産業廃棄物連合会・青年部協議会会長就任。CO₂マイナスプロジェクトを立ち上げ、青年部のみならず業界団体の知名度アップ及び組織力強化に尽力。



3限目 グッドホールディングスグループの経営戦略

大きく様変わりするビジネス環境に対応すべく、ホールディングス体制による組織運営、ステークホルダーへの積極的な情報開示、CSR(事業者の社会的責任)を意識した経営等々の経営戦略を事例を交えて講義します。

担当講師 赤澤 健一 (グッドホールディングス(株) 代表取締役社長)

61年兵庫県生まれ。近畿大学卒。同志社大学大学院博士前期課程修了。85年大栄サービス(現リヴァックス)入社。04年代表取締役社長就任。14年リヴァックス代表取締役社長辞任。現在に至る。(公社)大阪府産業廃棄物協会理事。主な著書に「遺品整理業、始めました。」(14年文化出版社)、「遺品は語る」(16年講談社+α新書)。



9月13日(木)

産業廃棄物処理業の経営Ⅱ

1限目講義: 10:15~11:35

2限目講義: 12:40~14:00

3限目講義: 14:30~15:50

1限目 当社の社員採用・育成・社員満足向上(ES)の取り組みと地域活動(CSR)について

近年の少子高齢化等により、従業員の確保が難しくなっています。また、既存社員についても、すぐに退職してしまっはなんにもなりません。当社では10年以上前から新卒採用を行い、様々な研修をはじめ社員教育に力を入れています。また、「お褒めの言葉表彰」に代表されるような従業員をやる気にさせる表彰制度があります。このような活動や地域でのCSR活動について、当社の事例を説明いたします。

担当講師 尾崎 俊也 (アースサポート(株) 代表取締役社長)

92年に三和銀行(現三菱UFJ銀行)に入行。その後退職して米国ロチェスター大学経営大学院でMBAを取得。卒業後の96年6月にアースサポート(株)に入社し、02年11月に社長に就任。業界活動では11年7月から2年間、全国産業廃棄物連合会青年部会長を務め、現在は17年2月から島根県産業廃棄物協会の会長代行を務めている。また、地域活動としてプロバスケットボールB.LEAGUE所属の島根スサノオマジック取締役会長も兼務している。



2限目 廃棄物処理業における事故防止に関する取り組み

全ての産業において労働災害撲滅は、永久的に取り組まなければならない最優先課題です。経営者として労働安全の組織づくりに積極的に取り組むことにより、企業存続のための礎を築き、経営者としての責任を果たすことの重要性を、経験した事故事例などを基にお話しさせていただきます。

担当講師 矢野 智孝 (株)吉勝重建 代表取締役

97年福井工業大学建設工学科卒業後、建設工事現場監督を実務経験。01年(株)吉勝重建入社。09年代表取締役就任。全国産業廃棄物連合会・青年部協議会、副会長・統括幹事等歴任。10年福井県建物解体業協会会長就任。全国解体工事業団体連合会にて、16年理事に就任し、技術安全委員会の委員として解体工事施工技術講習の講師を務める。



3限目 我が社「オガワエコノス」の66年の歩み

66年前、創業当時「し尿収集」から始まった当社は、その後昭和56年には家庭ごみを中心とした「資源ごみリサイクル業務」を開始し、平成15年からは産業廃棄物を中心とした「RPF製造業務」を始めた。「三方よし」の経営方針の元、世の中の役に立つ仕事を時代の流れに沿って先行して始めた結果が現在に繋がっている。その歴史と経験、経営判断の背景などをお話する。

担当講師 小川 勲 (株)オガワエコノス 代表取締役会長

74年立教大学経済学部を卒業後、一般企業を経て父親の経営する「小川興業(現オガワエコノスの前身)」に入社。以来一貫して現場の第一線に立ち事業推進の陣頭指揮を執る。01年より(社)広島県産業廃棄物協会の理事、11年には(一社)広島県資源循環協会会長に就任。広島県の不法投棄防止、適正処理、3Rについて協力し、推進してきた。また、(一社)日本RPF工業会の理事として、廃棄物固形化燃料(RPF)の普及にも貢献している。地域においても、「3Rの教育・啓発」に取り組み、「リサイクルに係る人材の育成」にも注力してきた。そうした活動が評価され、14年6月、広島県知事より「ひろしま環境賞」、15年11月、環境大臣より「循環型社会形成推進功労者 環境大臣表彰」を受賞した。

